

宮沢賢治記念館通信

発行 〒025-0011 岩手県花巻市矢沢1-1-36

宮沢賢治記念館

☎ (0198) 31-2319
☎ (0198) 31-2320

宮沢賢治記念館リニューアルオープン記念式典（4月24日）

写真左二人めから、宮澤啓祐氏、宮澤潤子氏、上田東一花巻市長、川村伸浩前市議会議長、栗原敦氏

心が震える体験を

宮沢賢治記念館リニューアル・アドバイザー 安藤 恭子



1982年、宮沢賢治記念館がオープンされた年、私はまだ大学生でした。

「宮沢賢治ゼミ」の夏期合宿が花巻でおこなわれ、ゼミ員全員でオープン直前の記念館を訪れました。記念館の入り口の前でただうろうろしていただけですが、それでも私たちは新しい何かが始まる予感に沸き立っていたのを憶えています。

初めて記念館の中に入ることができたときも、大切な何かに触れている実感に心が震えました。それまで紙とインクからだけ受け取ってきた「宮沢賢治」の生きた時代、その知識、世界観が、生きた存在として迫ってくるのです。記念館で出会った方の中には、生前の宮沢賢治と親交をもっていた方もいらして、その方の「天才にも理解者は必要なのですよ」というお言葉が印象的でした。なかなか「理解」は難しい、しかし、現代はその「理解」を助けてくれる記念館のような存在があ

る、そのことをありがたく感じました。

それから三十年以上が経ち、記念館のリニューアルに立ち会わせていただくことになったとき、あのときの「心の震え」はどこからくるものなのか、あらためて考えてみたくなりました。そこで思い当たったことの一つは、「新しさ」でした。今回のリニューアルも手がけられた乃村工藝社の設計・デザインの上質なセンスをベースに、「大銀河系図ドーム」や各種ビデオなどを駆使した展示は、農・科学・宗教・芸術という多面的なアプローチで世界・宇宙、そして、微細な生命のネットワークをすくいとりとした「宮沢賢治」の「新しさ」にふさわしいものと感じたのです。「新しさ」とは、刻々と動いていく「いま・ここ」の中にあり、同時に、「いま・ここ」にあるものの「最善」を求め続けることでしか創造できない「未来」のことではないでしょうか。私は、「宮沢賢治」が遺した多くのテキストからも、記念館をお造りになった方々の「宮沢賢治」観からも、そのことを学んだのです。

こうした意味での「新しさ」は、今回のリニューアルの基本理念にも引き継がれています。リ

リニューアルとは、単に内装がきれいになり、展示に採用された技術が最新になったということだけでは意味がありません。なぜ、新しくあるべきなのか、という問いかけと理念がなければ、「宮沢賢治」を感じるための場をつくることはできないでしょう。

科学によってさまざまな現象が明らかになりつつあり、人間の認識が刷新される時代の中で、既成の価値観に疑問を投げかけながら、真に価値あるものを求め続けた「宮沢賢治」の思考と実践の足跡を、どのように空間として表現しうのだろうか。好奇心と遊びに満ちた豊かな精神性をもつ「宮沢賢治」という人物が、もし現代に生きていたとしたら、何を面白いと感じ、そこから何を生み出そうとするのだろうか。そうしたことを想像するにつけ、「新しさ」という基本理念は不動のもののように思われます。

科学・芸術・宇宙・宗教・農業に分かれた大画面の映像、そのスタートスイッチとなっているホログラフィー（空中に浮かぶ虚像）などをご覧になったとき、2015年という「いま・ここ」にある技術によって可能になった表現に触れると同時に、「映像」「絵画」などの表現を言葉の世界に取り込むことを試みた「宮沢賢治」の挑戦を思い起こしていただければと思います。また、この三十年の間におこなわれた研究の成果が、画像やパネルの文言に生かされていることから、現象に対する認識が刻々と変化していくことを記した『春と修羅』の序文や「銀河鉄道の夜」を思い起こしていただけたらと思います。

さらに言えば、この記念館が「未完成」であることも「新しさ」の一つです。映像はもちろん入れ替え可能ですし、パネルも取り外しができ、まだまだ新しいパネルを組み込むことが可能です。「宮沢賢治」とは何だったのか、そして、これからどのような現象として私たちの前に現れるのか。「永遠の未完成」を内包しながら、そのときどきの「完成」は来場者の方々の参加によって成立する—そうした「新しさ」が、今回のリニューアルの理念の基本にあるのです。

三十年前、記念館を訪れたときの「心の震え」は、現在も私の中で生きています。これから、リニューアルされた記念館を訪れる方々の心にも、時間を越えて生き続ける何かが届いてくれることを願ってやみません。

石っ子賢さんの鉱物学

宮沢賢治記念館リニューアルアドバイザー 加藤 碩 一



宮沢賢治作品には、驚くべきことに70余りの鉱物名が登場し、この他にも多くの岩石・鉱石・土壌・化石名や地質学の専門用語も記されており、他の文学者の文学作品に類を見ません。それらの知見は、賢治が盛岡高等農林学校地質及び土壌教室に在籍していた

とき、所蔵されていた豊富な鉱物・岩石標本の観察と共に優れた教科書・地質図類から得られたものに違いありませんが、そのいわばルーツは、すでに小・中学校時代に折にふれ野外に出かけて採集した実体験（「石っ子賢さん」といわれた所以）や賢治が盛岡中学1年生の時に、博物学の授業で使われた神保小虎（1902）の『普通教育 礦物界教科書』（東京開成館）です。まず、「目次」を作品に登場するキーワード（下線を引いてあります）とともに見てみましょう。「」は、教科書からの引用です。

緒論 生物・人類・獣・鳥・魚・蟲・動物・草・木・植物・種子^{タネ}・石・砂

*「礦物界は礦物および岩石を併せて一切の無生物を含めるものなれば、その領分極めて廣く、人生との關係甚だ重し。…住居る土地と、少しも關くべからざる水と空氣と、さては大洋・月・星などの天體と、また皆礦物界のものならぬはなし。」

第一篇 礦物

- 第一章 石英（水晶（紫水晶・黒水晶・玉髓・瑪瑙）・電氣石・陽起石・硬度・硝子）
- 第二章 長石（陶土）
- 第三章 雲母（黒雲母・白雲母・蛭石・眞珠・薄片）輝石 角閃石（玉）、蛇紋石（鳩糞石・斑石・石綿・蠟石）
- 第四章 食鹽（岩鹽・蒸発）明礬 硝石（火藥）
- 第五章 方解石（いしばひ・鍾乳石・石筍・氷柱^{ツララ}・洞・炭酸瓦斯）
- 第六章 石膏 螢石（燐光）燐灰石（燐鑛・過燐酸石灰）
- 第七章 硫黃（亜硫酸瓦斯）琥珀
- 第八章 石榴石（金剛砂）黃玉 鋼玉（ルビー・青玉）
- 第九章 金剛石（寶石・模造寶石・人造金剛石・

飾石) 石墨(黒鉛・坩堝)

第十章 石炭(褐炭(亜炭)・泥炭・羊歯・炭田・坑道・石炭瓦斯・コールタール)

第十一章 石油(揮発油) アスファルト(土瀝青)

第十二章 水(水蒸気・氷・地下水・泉・温泉・雲・雨・霧・霜・霰・霽) 空気(酸素・窒素)

第十三章 銅(黄銅鑛・緑青・青銅・真鍮(黄銅)・洋銀・白銅・赤銅・孔雀石・鑛石・鑛山)

第十四章 鐵(磁鐵鑛・砂鐵・代赭石・鋼鐵)
*「主なる鑛山は釜石、仙人の兩鐵山なり。」

第十五章 錫(錫石・砂錫・白鑛) 鉛(方鉛鑛・鉛白) 亜鉛(閃亜鉛鑛)

第十六章 アンチモニー(輝安鉍) ニッケル
アルミニウム

第十七章 金(砂金)

第十八章 銀 白金 水銀(辰砂・アマルガム)

第十九章 鑛物通論(氣體・液體・固體・劈開・硬度・比重・試金石)

第二篇 岩石

第一章 花崗岩(御影石・石材) 安山岩 玄武岩(橄欖石) 流紋岩 黒曜石(石切場) 浮石^{かるいし}

第二章 凝灰岩(火山灰・火山礫・火山彈・赤間關硯・砥石) 砂岩(硅岩・那智黒) 礫岩 粘土 粘板岩(頁岩・石盤茸^{すれーとフキ})

第三章 石灰岩(生石灰・消石灰・胡粉・セメント・漆喰・大理石・石版石)

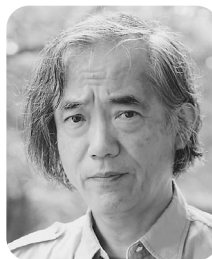
第四章 岩石通論(地殻・風化・水成岩・火成岩(熔岩・火山岩・深成岩・塊状岩)・断層・化石)

第五章 土壤(礫土・砂土・壤土・埴土・燐鑛・肥料)

また、これらに関連して「結晶」「石基」「選鑛」「製鍊(精鍊)」「弾性」「彩紋(紋理)」「鍍金」などの用語もでてきます。実に後年作品に登場する多くの用語を学んでいたものです。いかがでしょうか。繰り返しますが、賢治が中学一年で学んだものです。皆様にも新装なった宮沢賢治記念館の展示標本をぜひご覧いただき、知見を深めていただければ幸いです。

賢治記念館の新しいヴィジュアル表現について

宮沢賢治記念館リニューアル・アドバイザー 小 関 和 弘



このたび、32年ぶりにリニューアルされた宮沢賢治記念館。その常設展示室に歩を進めて、まず最初に目に飛びこんでくるのは、中央に広がる大きな空間でしょう。新機軸が打ち出された映像表現の中核をなすスペース

です。

これまでの記念館の常設展示の目玉は、斎藤文一氏のアイディアと設計による直径6mの「大銀河系図ドーム」だったと思います。数カ所に切り明けられた出入口から中に入って宙^{そら}の星々を探す楽しみは、プラネタリウムとは異なる一ゆるやかにカーブした床面から感じる足裏感覚を含めて、たいそう体感的なものだったと言えるでしょう。

その「大銀河系図ドーム」は、今回のリニューアルで取り外されました。そのかわり、天体だけに限られない「賢治宇宙」が、ドームのあった空間を中心として展開するようになったのです。その核をなすのが常設展示室中央の空間に設置された5つの大きな液晶画面です。液晶画面は、中央の空間に立つ来館者を取り囲むように配置されています。

「宙・芸術・科学・農・祈」の5分野に分けて、賢治の心象世界及び現実との関わりを示すビジュアル展示となっているのです。液晶スクリーンには、それぞれの分野毎に宮沢賢治の原稿写真や関連する場所や人物の写真などが、つぎつぎ動画風に映し出されてきます。画面奥から手前に、いくつもの写真がまるで迫ってくるかのように示されるので、どう見たらよいのかと戸惑う方がおられるかも知れません。私が見学者の一人として中央の空間にいたときに、傍におられた男性グループが液晶画面をご覧になりながら「ああ、無声映画かあ」とおっしゃっていたのも、その途惑いの表現だったかも知れないと思います。

しかし、こうした映像表現は、すこし時間を割いてご覧頂くなら、「表現を平易にして、視覚化を図り、新しい技術を利用する」とあった設立時の基本理念(宮沢賢治学会イーハトーブセンター栗原敦代表理事のまとめによる)に則った賢治の世界の多様性と豊穡性をダイナミックに示すもので

あることにお気づきいただけるのではないかと思います。それぞれの画面に映し出される画像は1シーケンスが約3～5分ですので、若干のご辛抱をお願いする事になるかも知れません（もしも画像が動いていなかったなら、画面真向かいにある小さな円柱の上面をのぞき込んでみて下さい。各分野に関連のある立体ホログラム映像—阿修羅像など—が見えるはずですよ。それをそっと捕えるように手を動かすと映像がスタートします）が、たとえば「科学」の画面の賢治が好んだ科学実験の実写映像からは、賢治がその実験を目の当たりにしたときの心臓の鼓動を共有していただけるのではないかと思います。

液晶スクリーンのことばかり書きすぎてはいけません。つつい大スクリーンに目が行きがちですが、常設展示室をご覧になるときは、スクリーンのウラ側、展示室の壁面に掲示してある250枚におよぶ解説パネルをまず先にご覧頂くことをお勧めしたいと思います。パネルは「宙・芸術・科学・農・祈」の分野にほぼ対応するかたちで配置されています。これまで手薄だった賢治と音楽、賢治と映画に関するパネルもそれらに含まれます。そうした分野毎のパネルをご覧頂いた後で、対応する分野の液晶スクリーンをご覧下さい。

また、スクリーン映像のスタート用ホログラム像の背後には、スポットライトで照らされた円形の図が4つ掲げてあります（「宙」は形が異なります）。その図の中心には「芸術・科学・農・祈」の文字が記され、外側の円に向かって「賢治の作品・活動」「賢治の関心」「関心分野・背景」など（分野によって異なります）のグループにまとめた、曼荼羅を思わせるような、同心円状の輪が広がっていきます。そのそれぞれの事項・名称が小さな球のなかに記され、それらを数珠状につないだ線が同心円の1つを形作っているのです。

解説パネルをご覧になった後に、液晶スクリーンの映像を、そしてこの円形の図をゆっくりと確かめ、そして出来ればもう一度、スクリーン画像をご覧頂くと、賢治の心象宇宙への理解をより深めていただけるのではないかと思います。

そう、拙いこの文章からではお分かりになりにくいでしょうが、常設展示室内のパネルや液晶スクリーンの配置自体が、上空から見たならば同心円状と呼べるような配置になっているのです。

“同心円”の外側から内側へ、そして内側から外側へ、展示空間を縫うように5つの心象世界を遊泳なさってください。

常設展示室内では、他にもテーブルにセットされたPC画面で童話「鹿踊りのはじまり」創作のきっかけになった鹿踊りの実演映像や、KAGAYAさんがお作りになった美しいCG映像など、さまざまな映像表現がお楽しみいただけます。

ビジュアル面で著しい変化を示すリニューアル賢治記念館を存分にお楽しみ下さい。

特別展示

『銀河鉄道の夜』はどう生まれたのか

宮沢賢治記念館リニューアル監修者 杉 浦 静



【〈宇宙〉コーナーの展示パネル「銀河鉄道の夜」の推移について】には「銀河鉄道の夜」は、現在83枚の草稿が残されていますが、用紙や使用筆記具を手がかりに、第一次稿～第四次稿まで、大きく4段階にわたる内容上の推移が明らかにされています。」と書かれています。新校本全集に、一次稿～三次稿及び最終的な本文（後期形）が掲載されていることや推移概念図なども示されていますが、スペースの関係もあって、これ以上、手がかりになった用紙や筆記具のこと、「内容上の推移」については具体的に説明されていません。】

今回の特別展示『銀河鉄道の夜』はどう生まれたか—草稿の謎にせまる—は、第一次稿～第四次稿にいたる推移のうちで、現存する草稿の上で最も大きな変更が見られる、第三次稿（初期形第三次稿）から第四次稿（後期形）への展開・推敲過程に焦点を当てて、草稿そのものからその実際の過程を見られるよう構成したものです。

最初に掲げられた「原稿の現状図解」は、草稿毎に、用紙の種類、主として用いられている筆記具、本文各章の枚数・長さを一覧にしたものです。色分けして縦に書いてあるので、地層のように見えます。よく見ると、同じ層が最初と最後に現れたり、用紙の使用状況が最初と最後の方が時に複雑になっていることがよく分かります。この「最初と最後の方」が、第三次稿から第四次稿が生まれ出るときに大きく変わった部分になりま

す。最初の部分とは、冒頭部草稿第1葉から第10葉まで、「一、午後の授業」から「三、家」までの章です。ここでは、第1葉のみを展示しています。既に使われた原稿用紙の裏に黒インクで書かれている事がよく分かります。タイトルの「銀河鉄道の夜」は、この追加された紙葉で初めてこの形になりました。（他のメモなどにもこの「の夜」があるタイトルは現れません。）「最後の方」は、二つのブロックに分かれて展示されています。

一つは、第74葉～78葉です。これは初期形第三次稿の最終部分です。原稿用紙の裏に鉛筆で書かれています。わずかに、ブルーブラックインクによる推敲が行われているのが分かります。また、いろいろな記号が付けられています。挿入部や接続の仕方を示したものです。（色鉛筆でのなぞりは賢治自筆ではありません）複雑な推敲のあとがみとめられるでしょう。第78葉は、余白が多くあり、メモが書かれています。ここが第三次稿の最終部であることもはっきりと分かります。もう一つのブロックは、第79葉～83葉です。この5葉は既使用の原稿用紙の裏を使用して、すべて、黒インクのみで書かれています。冒頭部と同じ黒インクのみです。このブロックは、最終段階で初期形第三次稿の末尾（第74～78葉）と差し換えられた部分です。第74葉の右半分の後半に、二重の△の組み合わせ記号や卍様の記号がありますが、その直前の所に「なつたやうに思ひました。」と書かれています。ここから、第79葉の冒頭、「ジョバンニは眼をひらきました。」につながるようになっています。初期形第三次稿の末尾、第四次稿（後期形）の末尾、それぞれの内容は、パネル「初期形と後期形の顕著な内容変化」の「概要」の最後のあたりを見てください、大きく変わっています。

この推敲は、冒頭部の追加挿入と最終部の差し換えばかりではありませんでした。もともとの初期形第三次稿そのものにも、黒インクによる推敲

は及んでいます。特に、追加された冒頭3章と、第三次稿で冒頭であった部分をどうつなぐかには苦心したと思われます。パネル「実際の原稿から読み解く推敲過程」を見てみてください。このパネルに掲げた第11葉は、枠外の計算メモ（600字詰め原稿用紙での枚数をを400字詰めのものに換算）や挿画の指定などより、一応の完成を見た段階の第三次稿の冒頭部と推定されている草稿です。挿画の指定などは、できあがってからされるものですから。ちなみに、この場面に挿絵をとという枠外の波線（～～）は、第四次稿への改編で削除されてしまうことになる第75葉（展示があります）にも指定されています。なおここは、ブルカニロ博士がジョバンニに「地理と歴史の辞典」を示している場面です。デジタル処理によって、第11葉の黒インク手入れ箇所や赤インク番号（非自筆）を消してみると、ブルーブラックインクで、ていねいに清書された本文が浮かび上がってきました。これに対して、発表を意識しての推敲やメモが書き加えられています。そして、しばらく後に、黒インクによる手入れが行われて第四次稿へと生まれ変わるようになります。冒頭部の「要挿画！」にも黒インクの線が及んでいるところなど、興味深いところです。【他の具体的な黒インクの手入れの様子は、パネルの解説を見てください。この第11葉以降も同じように、黒インクによる推敲・手入れは行われていきました。（ただし、何故か、第30葉以降には黒インク手入れは及んでいません。これも謎です。）こうして、第四次稿が成立していったのです。

この他、手帳に書かれた「創作メモ」も展示してあります。このメモは、初期形第三次稿の成立の時期と関わりと推定されているものです。第四次稿への改編のための黒インク手入れとの関係からも興味深いものです。これらのほかにも、各次稿の特色などについても簡潔にまとめてありますので、どうぞゆっくりとご覧下さい。】

読者の広場

私の

宮沢賢治

星めぐりの歌

埼玉県 高橋 登子

星めぐりの歌、注文の多い料理店、序、よだかの星、セロ弾きのゴーシュ等々、好きな作品です。

その中でも、「星めぐりの歌」は歌っていると自分が良い気分になり元気が出ます。オーケストラで聴くとそれはそれは優雅な音色です。賢治は作品によって何曲か作曲もしているのですね。

小学生の頃は、算数と体育が苦手、また、父と宗

教対立をしたりと聞くと、人間らしいなと思ったものです。家族愛に恵まれ、妹おもいの博識感性の人。

賢治の童話は、天地自然どこでもいつでも、何とでも誰とでも心を通い合わせ、会話できるふしぎさ。けれども、いつも自然体なのです。

人と争うこともなく、自分に欲なく、身なりに頓着せず、まして現代の様に金、金など思った事もなかったでしょう。

他を思いやるやさしさ、美しい精神は、いつ頃からどのように培われてきたのでしょうか。

♪あかいめだまのさそり、ひろげた鷺のつばさ
♪、作品に星がたくさん出てきます。賢治は星になったのです。どうぞ天上からみんなを見守って下さいね。

賢治と福島市のかかわり

福島県 五十嵐 登*

「宮沢賢治記念館展示リニューアルオープン」

が、NHKで放映されました。1億円の経費をかけたとか…。

福島市とのかかわりは、大正5年(1916年)10月の初め、盛岡高等農林学校2年生のとき、山形市で開催中の奥羽連合共進会見学のため、福島駅で乗り換え時間を利用して信夫山を眺めたり、阿武隈河畔を訪れたといわれる。そのため、御倉邸(御倉町・旧日本銀行福島支店長邸宅)の敷地内に賢治短歌の解説パネルが設置されている。

賢治は福島市を訪れる前の9月には地質調査で秩父地方(埼玉県)を訪れている。そこにも賢治の歌碑が建てられている(埼玉県小鹿野町・産経新聞27年4月19日付けによる)。長瀬町の秩父鉄道野上駅そばにも歌碑がある。

そんなことから賢治のかかわる土地には、もっと多くの歌碑があると思われるので、イベントとして「歌碑めぐり」などの企画を希望したいと同時に冊子などを発行されることを念願する次第である。

トピックス①

観 入館700万人達成



当館は、昭和57年9月21日に開館し、たくさんの方にお出でいただいておりますが、平成27年8月1日に入館された栃木県の岡泉翔大さん(中学1年生)で、入館700万人となりました。

まず、岡泉さんご家族(4名)と上田東一市長とで大きなくす玉が割られ、市長から「雨ニモマケズ」の入った額とお祝い品が贈られました。

市長は、「700万人目おめでとう。家族で楽しんで一生の思い出にしてもらえればありがたい。」と述べ、岡泉さんはびっくりしながらも喜びいっぱいの様子で「これからもっと賢治の作品を読みたい。」とインタビューに答えていました。

トピックス②

「賢治ゆかりのバラ」を植栽

6月24日、当館の前庭花壇に花巻ばら会の吉池貞藏会長と伊藤弥典副会長から、賢治ゆかりのバラ「グルス・アン・テプリッツ(和名は日光)」8本を植えていただきました。このバラは、賢治が1929年頃、主治医で親交のあった故佐藤隆房花巻共立病院(現総合花巻病院)元院長の自宅新築祝いに、関東から取り寄せて贈ったバラの一種とされています。植栽のときは、隆房氏の令息の進さん夫妻も立ち会って下さいました。

賢治生誕120年の来年には、深い赤色をして良い香りを放つたくさんのバラの花で、来館される方々をお迎えできることと思います。



伊藤副会長 佐藤進さん夫妻 吉池会長

「賢治ゆかりのバラ」

■トピックス③

「イギリス海岸」
21年ぶりに7月出現

7月中旬、当館から5kmほど西方にある北上川西岸に、賢治が命名した泥岩層の「イギリス海岸」が出現しました。今年の空梅雨で水位が低下したため、7月に露出するのは21年ぶりのことです。

訪れた方は、さっそく白い泥岩層をカメラにおさめたり触ったりしていました。賢治が、ここに農学校の生徒を連れて来て、一緒に泳いだりバタ

グルミの化石を発見したりして、生き生きと教師生活を送っていた姿が想像されます。



「イギリス海岸」出現に皆さんびっくり

来館者の声

記帳ノートから

No. 342~343

リ ニューアルオープンおめでとうございます。以前も4・5回見学させていただきました。館内は広々として展示も見やすく、ゆっくり見学できました。ここからの眺めも最高で、また来たいと思います。

子 どもの頃、不思議で面白くてただ読むだけだった賢治の作品が、大人になって、言葉の意味や伝えたいことを少しずつ分かってきたことで、作品がとても輝くものへと変化しています。今日ここへ来られて良かったです。

北 海道から来ました。この記念館を訪れることはこの2年間の私の夢でした。「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」この言葉は、私にとって生涯追い続けるものです。

年 を取ってから「賢治を読む会」という、先生1人に生徒4人という小さな読書会に20年近く所属しています。賢治の多方面にわたる知識、人に尽くす姿勢にただただ感服しています。本の世界でしか知らなかったことを現地に来て肌で感じる事が出来ました。

リ ニューアルオープン記念で、特別展示室の「銀河鉄道の夜はどう生まれたのか」という企画を見せていただきました。こよなくこの作品の好きな私にとって、涙があふれて仕方ありませんでした。この作品について、一層理解が深まり有り難かったです。

松 戸市から来ました。先ほどはイギリス海岸からくるみの森や北上川越しに記念館を眺め、今度は記念館から花巻市を眺めています。両方とも素晴らしい景色です。春の花巻は風も柔らかく最高にいい気分です。

賢 治さんは農民で詩人で科学者で、多方面に才能を発揮して短くも精一杯生きた素晴らしい人だと思いました。誰しも美しいものを感じ万物を慈しむ心があるのだから、自分も今生きていることをもっと楽しみ幸せな気持ちになれるよう、視点を変え心を鍛えていきたいと思いました。

修学旅行で訪れた小学生さんのおたより (一部分)

賢 治の物語の世界や羅須地人協会での努力、さらに、花巻のききんの様子や当時の考え方が分かり、岩手を知る上で参考になりました。

私は、賢治が物語や詩をよく書いていたのは知っていたけれど、音楽や信仰について深い考えを持っていたのには、とても驚きました。

もっと賢治の世界を知りたいと思います。

岩手県一関市 小林さん

私 は、子ども音楽劇という習い事をやっていますが、その1回目に取り組んだのが『どんぐりと山猫』でした。しかし、記念館で実際に見ると、私たちがやったのとは違いました。

そこで、私は、賢治さんが書いた作品をもっと読みたいと思いました。本当にありがとうございました。

岩手県宮古市 小野寺さん

賢治の世界 ワークショップ 「賢治と東北砕石工場」 を訪ねて (旧東北砕石工場・ 太陽と風の家・幽玄洞)

8月4日(火)、参加者17名は、一関市の太陽と風の家を訪ね石ッコ賢さんをキーワードとした鉱物展示室や双思堂文庫等を見学し、賢治が晩年技師として働いた旧東北砕石工場の内部に興味深く探索しました。

昭和4年の春、東北砕石工場主の鈴木東蔵が病床の賢治を訪ね熱心に話し合ううちに、工場で作る石灰石粉(肥料用炭酸石灰)で田圃の土壌改良を図って米の収量を増やし、農民救済に尽くすという志で一致しました。昭和6年、賢治は工場技師に就任し、石灰石の分析・広告作成・宣伝・セールスと猛烈に活動しますが、その年の9月にまたも病気の身となってしまいます。

そのようなときに書かれたのが、『雨ニモマケズ』や『グスコブドリの伝記』で、賢治の切ない思いが伝わってきます。

その後、3億5千万年前の地歴を誇るといわれる幽玄洞(鍾乳洞)の中に入り、石筍や神秘的な地底湖、ウミユリの化石を見学しました。

ワークショップに参加した方からは、

「賢治さんが、貧しい農民のために自分の命を削ってまで、努力した生き方に感動しました。

雨ニモマケズのごとく生きた方ですね。」

「賢治が砕石工場で働いていたことは知っていましたが、工場が当時のまま残っていたのにはびっくりしました。そして、一関の住民が大切に保存していたことにも感動です。」

というご感想を頂戴しました。



「群像の仲間たち」と一緒に記念写真

今後の開催事業のお知らせ

① 特別企画展「銀河鉄道の夜」はどう生まれたのか 一草稿の謎にせまる—

期日 平成27年4月25日(土)

～平成28年9月29日(木)

会場 宮沢賢治記念館特別展示室

内容 『銀河鉄道の夜』の原稿の解説、草稿の推移をパネルで紹介(本紙4～5ページ)

入場 入館券でご覧いただけます

② 宮沢賢治記念館開館記念行事講演会

日時 平成27年9月21日(月) 13:30～15:00

会場 宮沢賢治記念館

講師 高橋真理子氏(星空工房アルリシャ主宰)

演題 「人は何故星を見上げるのか

—星と私たちをつなぐ物語—

入場 講演会は無料です

③ 宮沢賢治記念館リニューアルオープン記念 ギャラリートーク

日時 平成27年10月24日(土) 13:30～

会場 宮沢賢治記念館

講師 杉浦 静氏(リニューアル監修者)

内容 リニューアルした展示内容について、テーマを絞って分かりやすく解説していただきます。

4月の定期人事異動

今まで大変お世話になりました。今後ともよろしくお願い致します。

☆退職・転出の職員

館長(非常勤) 太田 達久 退職

副館長 牛崎 敏哉 退職

上席主任 中島 明子 新渡戸記念館へ転出

☆今年度の職員

館長 鎌田 広子 市民生活総合相談センターより転入

副館長(非常勤) 牛崎 敏哉

上席主任 滝浦真貴子

上席主任 宮澤 明裕 新採用

社会教育指導員(非常勤) 伊藤 栄

学芸員(非常勤) 伊藤 夏子

✧編集後記✧

展示がリニューアルされ新鮮になった反面、内容が難しくなったのではないかという感想も頂いております。

今後もしリニューアル監修者・アドバイザーの方々からの解説を掲載したり、ギャラリートークを重ねたりしながら、宮沢賢治の作品や思いを分かりやすくお伝えしたいと考えています。